

SESSION HOUSE
Special Program

TOKYO x SEOUL DUO DANCE FESTIVAL

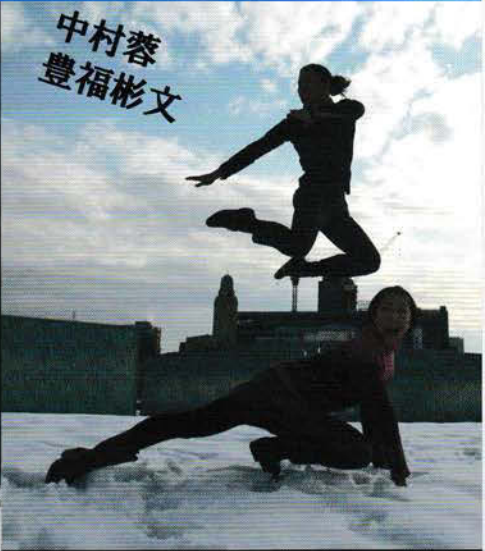
2014.12.6 SAT. 19:00 + 12.7 SUN. 14:00/18:00
KAGURAZAKA SESSION HOUSE



イ・ヨドク
ソン・ユンソン



今津雅晴
長谷川寧



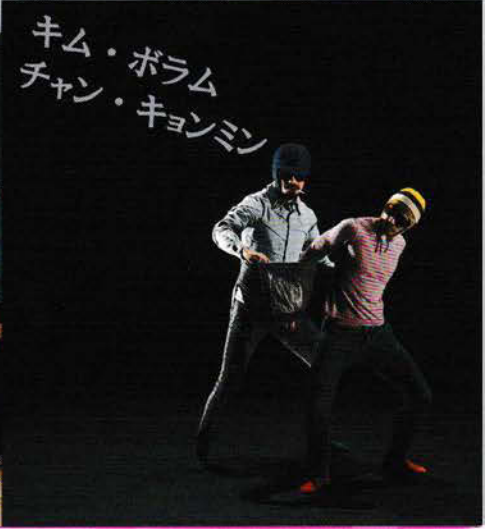
中村蓉
豊福彬文



香取直登
黒須育海



坂東一る
坂東あき



キム・ボラム
チャン・キョンミン

他者と向き合う原点 デュオダンス

ダンスが熱い日本と韓国。両国のコンテンポラリーダンスと伝統舞踊のダンサーが集い、他者と向き合う原点・デュオダンスで、舞台を共有します。東京のセッションハウスとソウルのドリームファクトリー、2つのスモールシアターがネットワークを結び、昨年からはまったフェスティバルです。観客と親密な関係を切り結ぶ小劇場の特性を生かし、毎年秋に東京・ソウル双方で開催します。

キム・ボラム × チャン・キョンミン 『共存 Coexistence』

(振付: キム・ボラム)

肯定と否定、それは常に共存する。自らの肯定的な部分のみを見ようとする最近の概念的な意識がどれほど自分自身を知っていくのにおいて良い影響を与えてくれるのか・・・私によく分からない。しかし、我々の誰にしても肯定的な部分と否定的な部分が有ることを、そしてそのような自分を知っていかなきゃいけないことを話したい。



キム・ボラム (Kim Boram)

現在、韓国内外でもっとも旺盛に活躍している若手のダンサー・振付家の一人。幼少時代 K-POP スターのヒップホップに魅了され、バックダンサーを務めていたが、大学で多様なダンスを学び、どのジャンルであれダンスの基本は一つであると感ずる。2008年、ダンスのジャンルや概念を離れて心の中にある何かを身体と音楽で解いていく「ambiguous dance company」を設立。活動を始めて間もなくCJヤングフェスティバルで「最優秀作品賞」、翌年「今年の批評家賞」で「演技賞」を受賞。その後も、SPAF・ソウル国際公演芸術祭、スペイン・マサダンチャ国際振付フェスティバルなどで受賞歴がある。



チャン・キョンミン (Chang Kyungmin)

韓国芸術総合学校及び同大学院修了。2009年～現在、アンソンスピックアップグループで活動。08年～現在 Ambiguous Dance Company で活動。10年 SPAF アンソンスピックアップグループ『躍りの協奏曲』に出演。2010年アンソンスピックアップグループ ポーランド招請公演『バラ&ボレロ』に出演。13年、安山フェスティバル Ambiguous Dance Company<Coexistence> に出演。

イ・ヨンドク × ソン・ユンソン 『大監ノリ(テガムノリ)』

イメバン(李梅芳)流の『大監ノリ』に台詞を加え、演劇的な構成に脚色した作品。ソロ達の「めあわせ」という素材と遊び性と劇的な踊りが調和された戯曲的な作品である。

※『大監ノリ』は、巫女(ムダン)が行うクックの一区切り。

『井邑杖鼓(チョンウブソルチャンゴ)舞』

パングツの中であらゆる器量を発揮する個人ノリである『ソルチャンゴ舞』を男女デュオの対話体に脚色した作品。陰と陽、男と女、太陽と月の二重のイメージに遊びの要素を加え、興と情を極大化した演劇的な作品である。

※パングツは、器量を人々に見せるために色々な演目のノリ(遊び)を組み合わせて繰り広げる農楽。



イ・ヨンドク (Lee Yongduk)

慶熙大学舞踊学科及び同大学院修了。重要無形文化財第92号太極舞履修者。全北無形文化財第7-2号井邑農楽(ソルチャンゴ)履修者。現、舞踊協会高陽市支部副会長。



ソン・ユンソン (Sung Yunseon)

梨花女子大学及び同大学院修了。同徳女子大学舞踊学博士。全北無形文化財第7-2号井邑農楽(ソルチャンゴ)履修者。現、同徳女子大学、羅州大学講師。

チョンウブ ソルチャンゴ チュム 芸術団
ソウル検査で伝統舞踊の研究をすると同時にキム・ピョンソブからイ・ヨンサン、ファン・ヘギョンの系譜を受け継ぎ、チョンウブ ソルチャンゴを継承している5人で結成された。また、伝統リズムの多様性を基盤として舞の要素を極大化し、『チョンウブ ソルチャンゴ チュム(井邑杖鼓舞)』の群舞化、キャラクター化、他ジャンルとの融合など様々な試みを通して同時代的舞台芸術を作り出すのに力を注いでいる。

今津雅晴 × 長谷川寧 『Men on a Ledge』

相関関係

1 二つのものが密接にかかわり合い、一方が変化すれば他方も変化するような関係。

2 数学で、一方が増加すると、他方が増加または減少する、二つの変数の関係。

我々は様々な相関関係に囲まれている、友達、夫婦、ペット、そして肉体に包まれる骨や筋肉、その周りの空気、踏みしめる大地、痛み、感覚、感情、その中で「生きる」という確証が持ち、ここに立つ。



今津雅晴 (Imazu Masaharu)

ダンサー、振付家、バントマイマー、Gyrotonic 及び Gyrokinesis トレーナー。金森稔、木佐貫邦子、北村明子、近藤良平(コンドルズ)、島崎徹、勅使河原宏、野田秀樹らの国内外作品、様々なジャンルの作品に参加。99年より自主作品に取り組み、独特独自の世界観を追求する。05年文化庁派遣在外研修員としてモントリオールに滞在。Louise Lecavalier との作品にて世界各国で好評を博す。08年 Company Marie Chouinard に参加。Dana Gingras(バンクーバー)、Said Gharbi(ブリュッセル)、平敷秀人(チューリッヒ)などと共同制作。国境の枠を乗り越え、身体の可能性を常に挑戦し続けている。12年より活動拠点を日本に移し、『Woyzeck/W』富士山アネット(長谷川寧作品)、『疾走』(今津雅晴作品)などを発表。



長谷川寧 (Hasegawa Nei)

作家・演出家・振付家・パフォーマー。2003年、富士山アネット(フジヤマアネット)結成。演劇の方法論を用い、身体を起こして行く「ダンス的演劇(シアターダンス)」にて独自の活動を行っている。世田谷パブリックシアター、BankART、川崎市アートセンター、アジア舞台芸術祭、東京芸術劇場、芸術創造館、福岡演劇フェスティバル、伊丹アイホール、アドリエ劇研舞台芸術祭他、多数企画の招聘及び入選。振付家としてフジファブリック、bonobos、カサリンチュ、the chef cooks me 等のMVを手掛ける他、ホリプロ[エンロン]、FUKAIPRODUCE 羽衣、オフィス3〇〇他多数。スイス、シンガポール、韓国等国内外にてダンス・演劇の枠を超え活動中。

「他者と自分を識るためのフェスティバル」

この「デュオ」には様々な意味がある。文字通り二人で踊るダンスであること。次にコンテンポラリーと伝統舞踊、両方を含んだプログラムであること。そして日本と韓国という二つの国の協働プログラムだということである。デュオとは常に「他者」を知ろうとする行為であり、自身の新しい扉を開いていくということだ。そのためのフェスティバルなのである。

アドバイザー 乗越たかお(作家・ヤサぐれ舞踊評論家)

香取直登 × 黒須育海 「RE:DIVISION」

本来は単一、あるいは同一であったものが、分化・分裂し、単純化もしくは複雑化していく。異なる文化をもつそれぞれの個体が、お互いを認知し、干渉することで変化していく。



香取直登 (Katori Naoto)

1986年、千葉県小見川町(現、香取市)出身。埼玉大学入学時、ダンスと出会う。中学、高校時代バレーボール部に所属、それで鍛えた瞬発力とジャンプ力を駆使し、空間を縦横無尽に駆ける。これまで、近藤良平、平原慎太郎、大橋可也等の振付作品に出演。横浜 DANCE COLLECTION EX ファイナリスト。セッションハウスの全国の大学生によるプログラム、「UDC」などで黒須育海と出会い、共同創作を始める。黒須とのダンスユニット「さいたい」でダンスサミット in Japan 2013 グランプリ受賞。2014年3月、「コンドルズ」メンバーとなる。現在、体育会系ダンスカンパニー「ビルディング」メンバーとしても活動している。



黒須育海

1987年埼玉県さいたま市出身。大東文化大学卒。大学在学時に19歳でコンテンポラリーダンスに出会う。東野祥子主宰「Baby-Q」に参加、関かおり振付作品に初演から参加など様々な振付家の元でダンサーとして活動しつつ自身の創作活動を行う。2012年ソロ『蚤の綴り』を発表。Dance Creation Awardにて海外コンクール推薦賞、プラボー賞受賞。NEXTREAM21にて優秀賞受賞。横浜 DANCE COLLECTION II ファイナリスト。2013年より香取直登との活動を開始。共作デュオでダンスサミット in JAPAN 2013にてグランプリを受賞。2011年から教育機関でワークショップを行うなど幅広く活動している。

中村蓉 × 豊福彬文 「シェルフィッシュ(shellfish)」

夜の海は遠く遠くに広がって、すべてが黒い。
よく見ると、空と海と砂と彼の足跡が綺麗なグレーのグラデーションをつくっている。
その中で、砂に埋まる貝殻は確かに真っ白だ。



中村蓉 (Nakamura Yo)

2009年より小野寺修二、近藤良平、両氏の振付作品に出演、アシスタントを務める。『音楽劇トリツカレ男』、近藤良平氏とのデュオ『恋のパカンス』、室伏鴻氏の作品等に出演。新国立劇場『効率学のススメ』など演劇の振付・ステージングも担当。舞台以外にも郷ひろみ『笑顔にカンバイ!』MV 郷ひろみ役、BeeTV「映画はスマホで」TVCM 等に出演。12年ダンスコンテスト NEXTREAM21 審査員特別賞、第1回セッションベスト賞、13年横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞を受賞。14年はルーマニア・シビウ国際演劇祭、イギリス National Theatre Wales レジデンス企画 WalesLab、ベトナム Europe Meets Asia in Contemporary Dance に参加。国内外で活動を広げている。



豊福彬文 (Toyofuku Akifumi)

6歳の頃ブラジル人にサッカーを習い熱中。富崎大学でコンテンポラリーダンスに熱中。2010年から「スポーツマン」を逆読みした体操とダンスが混在するグループ「んまつーボス」に参加・熱中。メンバーとして、韓国・中国・イギリスにて作品を発表。ArtM トヤマ 09.10 特別賞受賞。高円寺ダンスアワード 2010 出演。YOKOHAMA DANCE COLLECTION EX 2011 COMPETITION II 奨励賞受賞。同 EX 2012 でファイナリスト。文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」(H23・24) や文化庁「次代を担う子どものための文化芸術体験事業-派遣事業-」(H22~24) 等の派遣芸術家(ワークショップ講師)。

坂東一る × 坂東あき 「三社祭」

天保3(1832)年江戸中村座初演。二代目瀬川如卓作詞、二代目清元延寿太夫作曲。
三社祭は江戸名物の浅草神社の祭礼、この作品は三社祭の山車人形を舞踊にしたもの。浅草神社は隅田川で漁師の浜成と武成がすくい上げた観音像が縁起となっており、この二人に善玉悪玉の霊が乗り移るという趣向。日本舞踊には珍しく跳躍を入れたテンポの良い洒落な一幕である。



坂東一る (Bando Ichiru)

1990年坂東流入門。2002年に家元十代目坂東三津五郎より、坂東一るの名を許され、2011年に師範となる。国立劇場にて、長唄「二人極久」極久役、熊本八千代座「一期会」公演において「うかれ坊主」を務める。また、ジューズ三木脚本・演出「虚空遍歴」に出演するなど国内で活躍をする一方、坂東扇菊舞踊団の海外公演(ウクライナ、ウズベキスタン等)にも参加し、各訪問団にてワークショップに取り組みなど、国際的な文化交流に務めている。



坂東あき (Bando Aki)

1988年より日本舞踊を坂東扇菊師に師事。2009年に家元十代目坂東三津五郎より、坂東あきの名前を許され、2011年に師範となる。長唄「鷺娘」や清元「鞍馬獅子」の郷の君役で国立劇場に出演する一方、エルドマン作・ウラジーミル・ベリシス演出「自殺者」、藤田傳作・演出「ジョン万次郎外国見聞録」(アメリカツアー)などにも出演を果たす。坂東扇菊舞踊団の一員として、北京、キエフ、中央アジア公演などに参加。日本舞踊を通じての国際交流にも精力的に携わっている。

ソウル・ドリームファクトリーの公演情報

11月5日(水)～9日(日) 今津雅晴・長谷川寧

12日(水)～16日(日) 中村 蓉・豊福彬文

19日(水)～23日(日) 香取直登・黒須育海

26日(水)～30日(日) 坂東一る・坂東あき

※いずれも韓国2組とのジョイント公演です。

ドリームファクトリー(主宰: 李哲珍)

韓国のダンスと伝統舞踊の小劇場の活性化を掲げて設立された社団法人チウム芸術センターは、ソウルの大学路(テハンロ)に在って、2007年には成均小劇場、2011年にはドリームファクトリー、2012年にはダンススタジオを開館。これらの場を活用して公演、フェスティバル、ワークショップ、レジデンス事業などのさまざまなプロジェクトを展開している。特にトーキョー×ソウルデュオダンス・フェスティバルを開催するドリームファクトリーは、2011年からデュオ・フェスティバル、伝統舞踊流派展、伝統芸術フェスティバルなどを開催してきた歴史のある小劇場である。

チケット(税込)

前売一般 **3,000** 円

学生 **2,500** 円

当日 **3,500** 円

ご予約は下記の電話、メール、サイトからお申込できます。
ご希望の日時・ご氏名・ご連絡先・人数をお知らせ下さい。
メールまたはサイトからお申込の際は、こちらからの返信をもってご予約完了となります。

企画 李哲珍、伊藤孝、崔柄珠
アドバイザー 桑越たかお

照明 岡田淳
音響 上田道宗
舞台監督 外園彩織
記録映像 瀧島弘義
記録写真 伊藤孝

助成 公益財団法人 日韓文化交流基金

後援 駐日韓国大使館 韓国文化院

韓国文化芸術委員会

主催 トーキョー×ソウルデュオダンス・フェスティバル推進委員会

制作 セッションハウス企画室



12 / 6(土) 19時の回 終演後、アフタートークあります!

ソウル・ドリームファクトリー主宰・李哲珍氏等に、韓国のダンス事情や小劇場の可能性といったお話をうかがいます。ぜひお立ち会い下さい!

会場・お問合せ・お申込

セッションハウス企画室

✉ mail@session-house.net

🌐 <http://www.session-house.net>

☎ 03-3266-0461

セッションハウス

〒162-0805

東京都新宿区

矢来町1158

路地裏の小劇場。

東京メトロ東西線神楽坂駅
1番出口から地上へ。

